セーフティ プロモーション スクール 認証申請書

Safety Promotion School Designation application

大阪教育大学附属池田小学校

Ikeda Elementary School

attached to Osaka Kyoiku University

日本 Safety Promotion School 協議会

平成 30 年 3 月 6 日

目　　次

学校概要 ---------- 1
本校教育の概要 ---------- 3

セーフティ プロモーション スクールの７つの指標 ---------- 5
指標１・２ ---------- 6
指標３ ---------- 8
指標４ ---------- 9
指標５ ---------- 10
指標６ ---------- 11
指標７ ---------- 12

学年別１日平均保健室（怪我による）来室者数 ---------- 13

学年別安全教育カリキュラム ---------- 16

安全科の授業例
　交通安全「歩行者」～交通事故の現状～ ---------- 23
　生活安全「不審者・防犯」～危険な場所とは～ ---------- 25
　情報モラル「SNS によるトラブル」～何気ない一言で～ ---------- 27

写真資料
　安全教育 ---------- 29
　安全管理 ---------- 30
　安全連携 ---------- 31

学校概要

1. 学校名 ： 大阪教育大学附属池田小学校
2. 所在地 ： 大阪府池田市緑丘 1-5-1
3. 郵便番号 ： 563-0026
4. 電話番号 ： 072-761-3591
5. Fax 番号 ： 072-761-3594
6. E-Mail ： ikeda-e@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
7. Website ： www.ikeda-e.oku.ed.jp
8. 通学区域 ： 池田市，豊中市，箕面市，吹田市，大阪市，川西市，伊丹市，宝塚市，猪名川町
9. 校長 ： 佐々木　靖
10. 副校長 ： 荒川　真一
11. 主幹教諭 ： 土本　純平
12. 連絡担当者 ： 奈良　真行
13. 担当者職名 ： 学校安全主任

学校統計

1. 児童数 ： 613 名
2. 在籍児童年齢 ： 6 歳～12 歳
3. 常勤教員 ： 27 名
4. 非常勤教員 ： 4 名
5. 職員 ： 10 名
6. 校種 ： 小学校（国立）

航空写真（平成 20 年 5 月撮影）

本校教育の概要

1. 本校の任務

① 義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う

② 大阪教育大学との共同による学校教育と生涯学習の実践的研究

③ 大阪教育大学の学部生と大学院生の教育実習と実地研究指導

④ 公立学校との実践的研究交流など、地域社会との連携・協力

⑤ 学校が安全で安心できる場所とするための安全教育の実践と発信

2. 本校の教育目標

① 自ら進んで学び、生活をきりひらく主体的な意欲と能力の育成

② 好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成

③ 自他の生命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成

④ 健康の増進と、明るくたくましい心身の育成

⑤ 安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成

3. 本校の沿革（学校安全関係）

1909/04/12	創立（池田市建石町）
1919/03/31	大阪府池田師範学校附属池田小学校と改称
1939/08/22	鉄筋新校舎へ移転（池田市城南町 60）
1947/06/16	ＰＴＡ発足
1951/04/01	大阪学芸大学附属池田小学校と改称
1953/10/19	現在地に校舎を移転
1967/06/01	大阪教育大学附属池田小学校と改称
1973/04/01	大阪教育大学教育学部附属池田小学校と改称
2001/06/08	侵入者による殺傷事件（児童 8 名が亡くなり、児童 13 名と教員 2 名が負傷する） メンタルサポートチーム設置
2001/08/06	池田キャンパスの小中高合同で第 1 回不審者対応訓練実施
2001/08/27	仮設校舎（池田市城南 3-1-1）で学校再開 登校時の PTA 立ち当番開始　スクールバス運行開始

2002/02/28	子どもたちの祈りと誓いの集い
2002/06/08	祈りと誓いの集い（以後、毎年 6 月 8 日に行う）
2004/02/28	本校舎新改築工事終了
2004/04/01	大阪教育大学附属池田小学校と改称 現校舎（池田市緑丘 1-5-1）で学校再開
2004/06/08	祈りと誓いの塔完成・除幕式
2008/11/01	創立 100 周年記念式典挙行
2009/02/23	文部科学省教育課程特例校
2009/04/01	「安全科」新設
2009/10/01	書籍「いのちの教育」を刊行
2010/03/05	WHO International Safe School に認証　International Safe School 宣言発表
2010/08/21	PTA を対象とした普通救命講習開始
2011/02/10	研究冊子「とごころ」を発刊
2011/02/10	不審者対応訓練を研究発表会で公開
2011/06/08	児童殺傷事件以降の 10 年間の安全の取り組みを保護者・市民に公開
2011/09/07	第 20 回世界セーフコミュニティ会議　スウェーデン　で学校安全の取り組みを発表
2013/02/23	不審者対応訓練を研究発表会で公開（これ以降毎年 1 回公開を継続　2018 現在）
2013/03/05	WHO International Safe School に認証
	第 21 回　セーフコミュニティ国際会議　メキシコ・メリダ市　で学校安全の取り組みを発表
2014/05/13	第 7 回アジア地域 SC 会議　韓国・釜山市　で学校安全の取り組みを発表
2015/03/06	Safety Promotion School に認証予定
2016/4/16	小中学校国際教育国際検討会　台湾　で学校安全の取り組みを発表
2016	登校見守りだけでなく下校見守りを開始（PTA）
2016/5	プールの日よけ設置（熱中症と直射日光による肌へのダメージの防止のため）
2017/4	登下校見守り時のベストの着用開始（視認性を向上させ見守りの効果を高めるため）
2017/5	プール外周のシートの張り替え（危険防止のため滑りにくく視認性が高いものへ）
2017/11	書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」を刊行
2018/3	Safety Promotion School に再認証予定

セーフティ プロモーション スクールの７つの指標

指標１：　学校内に、学校安全に関わる活動の中核を担う「学校安全コーディネーター」等を設置し、その「学校安全コーディネーター」を中心とする学校安全推進のための委員会（以下「学校安全委員会」）が設置されている。
なお学校安全委員会は、「学校安全コーディネーター」のほか、校長・教頭等の学校管理職を含む教職員の代表、児童生徒の代表、PTA 代表、学校を管轄する地域の警察署・消防署の代表、学校のある地域自治会の代表、スクールガードリーダー等の学校ボランティアの代表等から構成されていることが望ましい。

指標２：　学校において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域（「３領域」と表記）の学校安全推進のための「中期目標・中期計画（３年間程度)」が立案されている。

指標３：　学校安全委員会において、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が策定されている。

指標４：　策定された「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている。

指標５：　学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ明確な根拠を基に活動に対する分析と評価が行われている。

指標６：　学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。

指標７：　学校安全推進に関わる活動の成果が、当該学校関係者に共有されるよう広報するとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の公開と新たな情報の収集に努めている。

指標１：学校安全委員会

		役職
委員長	学校安全コーディネーター	・学校安全主任
委員	教職員代表	・学校長　　・副校長　　・主幹教諭 ・養護教諭
委員	児童代表	・6 年生代表　2 名　　・5 年生代表　2 名
委員	PTA 代表	・ＰＴＡ会長　　・ＰＴＡ安全部会長
委員	警察関係者	・池田警察署 生活安全課長
委員	消防関係者	・池田消防署　署長
委員	市町村危機管理部局関係者	・池田市役所危機管理課　安全管理担当監
委員	地域自治会代表	・鉢塚町内会　副会長
委員	大阪教育大学	・学校危機メンタルサポートセンター長

指標２：セーフティプロモーションスクール活動の中期目標・中期計画

（平成 27 年 3 月の目標・計画および達成状況）

分野	中期目標・中期計画	達成状況
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	・危険個所の発見及び遊具等の施設及び設備の改善に努める。 →低学年の頭部打撲事故を 50%以下にする。 ・休憩時間の怪我を現在の半分以下にする。 →20 分休憩と昼休憩の怪我の発生を 200 件以下におさえる。 ・教職員、児童、保護者が合同で防犯及び地震の避難訓練を行う。 ・救命・外傷予防や不審者対応に関わる施設及び設備を一層充実させる。	・月に 1 度の安全点検を継続的に実施することで、危険個所を早期に発見し改善した。 →低学年の頭部打撲は 18%減少した。 ・休憩時間の重大な怪我の発生件数は減ったが、数値目標を達成することはできなかった。 ・教職員及び児童合同での訓練を実施することができた。今後は保護者を含めての訓練を行っていく。 ・AED の更新やプールでの熱中症予防のための施設及び設備の新設を行った。

指標１：学校安全委員会

		役職
委員長	学校安全コーディネーター	・学校安全主任
委員	教職員代表	・学校長　　・副校長　　・主幹教諭 ・養護教諭
委員	児童代表	・6 年生代表　2 名　　・5 年生代表　2 名
委員	PTA 代表	・ＰＴＡ会長　　・ＰＴＡ安全部会長
委員	警察関係者	・池田警察署 生活安全課長
委員	消防関係者	・池田消防署　署長
委員	市町村危機管理部局関係者	・池田市役所危機管理課　安全管理担当監
委員	地域自治会代表	・鉢塚町内会　副会長
委員	大阪教育大学	・学校危機メンタルサポートセンター長

指標２：セーフティープロモーションスクール活動の中期目標・中期計画

（平成 27 年 3 月の目標・計画および達成状況）

分野	中期目標・中期計画	達成状況
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	・危険個所の発見及び遊具等の施設及び設備の改善に努める。 →低学年の頭部打撲事故を 50%以下にする。 ・休憩時間の怪我を現在の半分以下にする。 →20 分休憩と昼休憩の怪我の発生を 200 件以下におさえる。 ・教職員、児童、保護者が合同で防犯及び地震の避難訓練を行う。 ・救命・外傷予防や不審者対応に関わる施設及び設備を一層充実させる。	・月に 1 度の安全点検を継続的に実施することで、危険個所を早期に発見し改善した。 →低学年の頭部打撲は 18%減少した。 ・休憩時間の重大な怪我の発生件数は減ったが、数値目標を達成することはできなかった。 ・教職員及び児童合同での訓練を実施することができた。今後は保護者を含めての訓練を行っていく。 ・AED の更新やプールでの熱中症予防のための施設及び設備の新設を行った。

分野	中期目標・中期計画	達成状況
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	・防災倉庫の備品の充実を進める。 ・災害発生後の保護者との連絡方法や引き渡し方法等を確立する。 ・登下校時に発生した自然災害に適切に対応するシステムを構築する。 ・教職員、児童、保護者が合同で防犯及び地震の避難訓練を行う。	・備品の更新を行った。 ・必要に応じて一斉メール配信や HP 等で下校の方法を連絡した。 ・登下校中のＪアラートへの対応について指導した。 ・教職員及び児童合同での訓練を実施することができた。今後は保護者を含めての訓練を行っていく。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	・学校行事等に地域住民を積極的に招待し、地域との交流をより一層進める。 ・道徳教育の充実を図り、社会の一員としての自覚を促すとともに、高学年児童を中心として、マナー向上を目指した取り組みを行う。 →年間 50 日～100 日の下校当番を実現する。	・運動会や餅つき大会などに招待するとともに、地域の清掃に参加し交流を深めた。 ・道徳専科を導入し、道徳教育の充実を図った。 →PTA による下校見守り当番を平成 28 年度より実施している。

（平成 30 年度からの中期目標・計画）

分野	中期目標・中期計画
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	・危険個所の発見及び遊具等の施設及び設備の改善に努める。 →低学年の頭部打撲事故を平成 29 年度の 70%以下にする。 ・休憩時間の怪我を減少させる。 →20 分休憩と昼休憩のけがの発生を平成 29 年度の 70%以下におさえる。 ・保護者と連携しての防犯及び地震の避難訓練を行う。 ・救命・外傷予防や不審者対応に関わる施設及び設備を一層充実させる。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	・防災倉庫の備品の充実を進める。 ・災害発生後の保護者との連絡方法や引き渡し方法等を保護者と共有する。 ・登下校時に発生した自然災害に適切に対応できるよう安全教育を行う。 ・保護者と連携しての防犯及び地震の避難訓練を行う。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	・学校行事等に地域住民を積極的に招待し、地域との交流を継続的に実施する。 ・道徳教育の充実を図り、社会の一員としての自覚を促すとともに、安全教育の一環として児童が中心となってマナー向上を目指した取り組みを行う。 ・PTA による下校見守りを継続して行う。

指標３：セーフティ プロモーション スクール活動の年間計画（平成２９年度）

分　野	領　域	年間計画
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	○児童自身が外傷予防に取り組もうとする態度を育成する。 ○安全科の授業を通して、児童の危険予知能力を高める。 ○児童と教職員が不審者対応訓練を実施し、非常事態に備える意識を高める。
	安全管理	○警備計画や校内安全規則に基づき、校内の危険箇所を減少させる。 ○日直が校内を巡回し、危険な行動を防ぐ。 ○メール送信システムや欠席連絡システムを活用し、学校と保護者の連絡が迅速に行えるようにする。 ○消防署や病院との連携を深め、救急搬送が迅速に行えるようにする。
	安全連携	○不審者対応訓練や普通救命講習を通して教職員・保護者の救命救急スキルを高める。 ○学校安全委員会の場で学校の取り組みに対する外部からの評価を受ける。 ○不審者対応訓練の内容を DVD に収め、各学校に配布する。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	○地震・火災・水難の避難訓練を定期的に実施し、児童の防災スキルを高める。 ○自然災害時の対応について、安全科の授業で系統的に取り組む。 ○地区別下校を行い災害時に高学年中心に安全に下校できるようにする。
	安全管理	○消防計画や防災組織編成に基づき、教員がそれぞれの役割を果たす。 ○災害で下校できない状況を想定し、食料を備蓄する。 ○災害時における保護者への連絡方法の周知・徹底を図る。
	安全連携	○普通救命講習を実施し、教職員や保護者の救命救急スキルを高める。 ○学校安全委員会の場で学校の取り組みに対する外部からの評価を受ける。 ○池田消防署員との連携による安全教育の実施
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	○安全に登下校しようとする態度を育成する。 ○社会の一員としての自覚をはぐくむことで、登下校マナーを向上させる。
	安全管理	○駅から学校まで安全な経路を通学路として定める。 ○日直が登下校時に通学路を巡回し、安全を確保する。 ○学校に入った連絡を通学路にいる日直に速やかに伝わるようにする。
	安全連携	○保護者や地域の協力を得て登下校の安全が確保するように努める。 ○池田警察署員と連携した安全教育の実施

指標４：セーフティ プロモーション スクール活動の実践（平成２９年度）

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	・けがをした児童が、自分で発生場所や時刻を PC に入力する。 ・児童と教職員が、不審者が侵入したという想定で避難する。 ・安全科のカリキュラムに従い、安全科の授業で学年に応じた防犯教育に取り組む。 ・栄養教諭・養護教諭と担任が、食育の一部として食の安全を指導する。
	安全管理	・児童が安全に学校生活を送ることができるように各種規則を定める。 ・毎月 1 回、担当場所の施設設備及び遊具の安全点検を行う。 ・緊急時及び下校時刻の変更時に全保護者に一斉にメールを送信する。 ・登下校時に日直および保護者が巡回指導を行う。
	安全連携	・各学年の生活指導上の問題点等を教員全体で共有する。 ・不審者が侵入した想定で、犯人確保や救命活動の実地訓練を行う。 ・保護者や児童に学校の教育活動に対するアンケート調査を行う。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	・通学許可範囲を 21 の地区に分け、地区ごとに下校する体制を整える。 ・児童と教職員が、地震や火災が発生したという想定で避難する。 ・安全科のカリキュラムに従い、安全科の授業で学年に応じた防災や火災、水難等に関わる教育に取り組む。
	安全管理	・火災の予防や児童の安全確保のため、消火設備等の点検を行う。 ・不審者、地震、火災、風水害に対応するための役割分担を行う。 ・緊急性を 4 段階に区分し、各段階で下校方法を定める。 ・登下校時に Ｊ アラートが発令された時の対応の仕方を児童・保護者に周知する。 ・災害により下校困難となった場合に備えて、2 日分の食料を備蓄する。 ・プール水泳期間中、毎時間の指導内容及び安全点検結果を記入する。 ・地震発生を感知し、地震波が到達するまでの時間を放送で知らせる。
	安全連携	・プール水泳指導のあり方についての意見交換及びプールの安全点検を行う。 ・海水浴中の事故防止策や津波が到来した場合の避難経路を確認する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	・登下校時の安全確保のため、教員や保護者が通学路の複数個所に立って指導する。 ・池田警察署の協力により、警察官が新 1 年生に交通安全を指導する。
	安全管理	・1 年生に限り、登校時にスクールバスで池田駅から学校まで送る。
	安全連携	・毎日輪番制で、6 名の保護者が決められた場所に立って児童の安全確保を行う。 ・保護者（当番制）が、下校時に通学路を巡回指導する。 ・池田市職員が、青色灯をつけた車で登下校時にパトロールする。

指標５：セーフティ プロモーション スクール活動の評価（平成２９年度）

分野	領域	評価方法
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	・怪我等による来室する児童の減少はならなかったが、重大な怪我は減少傾向になる。 ・児童を含めての不審者対応訓練を適切に実施した。 ・安全教育のカリキュラムに基づいて安全科の授業を実施した。
	安全管理	・安全点検に基づいて、修理個所の補修を行った。 ・プール外周のシートの張り替えを行い、事故の防止に努めた。 ・保護者へのメールを必要に応じて配信した。 ・日直・保護者による登下校時の見回りを行った。
	安全連携	・児童に生活指導上の問題があった際には職員全体で共有を図った。 ・通学路近くでの不審者情報に対して、関係機関と連絡を取り児童の安全確保に努めた。 ・不審者対応訓練は通常の訓練に加え、2 月の教育研修会で公開の不審者対応訓練を実施した。 ・児童・保護者を対象に学校教育診断を行った。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	・地区別下校を年 5 回実施した。 ・地震・火災の避難訓練を計 3 回行った。 ・安全科のカリキュラムにしたがって計画的に指導を行った。
	安全管理	・消防点検を定期的に実施。 ・学校安全の手引きを作成し、訓練や点検を計画的に行った。 ・J アラート発令時の対応について、児童・保護者に周知した。 ・プール期間中の安全点検を記録した。 ・緊急地震速報の装置を活用し、避難訓練を行った。
	安全連携	・プール実施前の安全管理委員会の実施や設備点検を行った。 ・臨海学舎実施前の安全に関わる訓練や打ち合わせの実施。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	・保護者と連携し、登下校時の指導を行った。 ・安全科の授業のほか、池田警察署員による交通安全指導を行った。
	安全管理	・スクールバスを運行し、1 年生の登校時の安全を図った。 ・日直による登下校時の見守りを行った。
	安全連携	・保護者（当番制）による登下校時の見守りを行った。 ・池田市危機管理課による登下校時の安全パトロールを実施した。

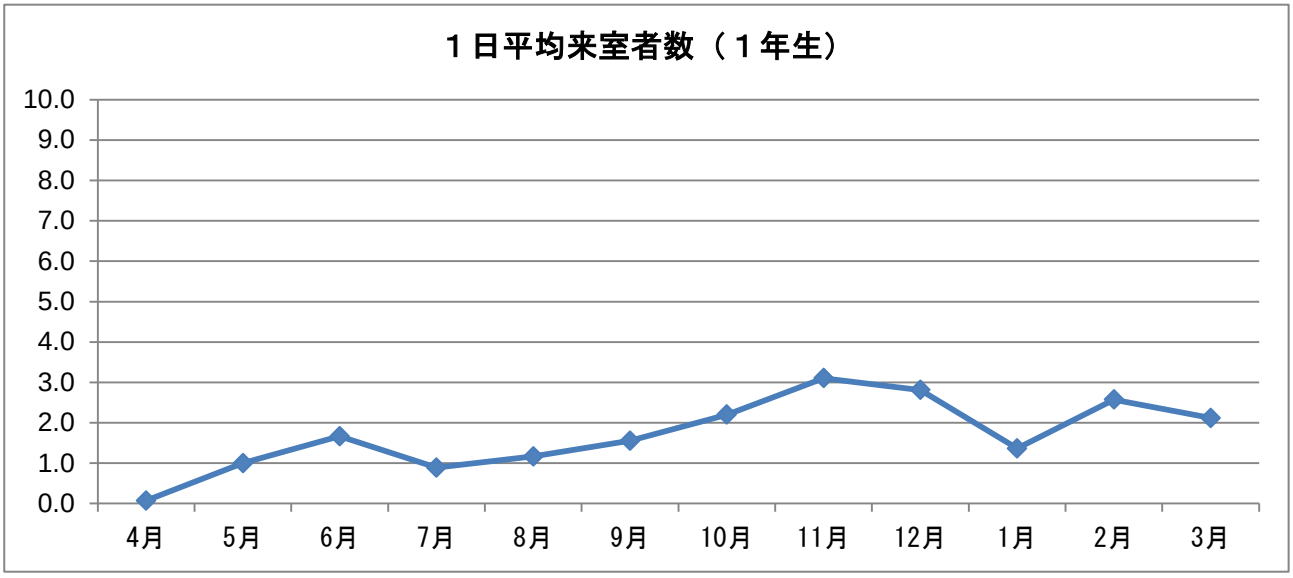
指標６：セーフティ プロモーション スクール活動の改善（平成２９年度）

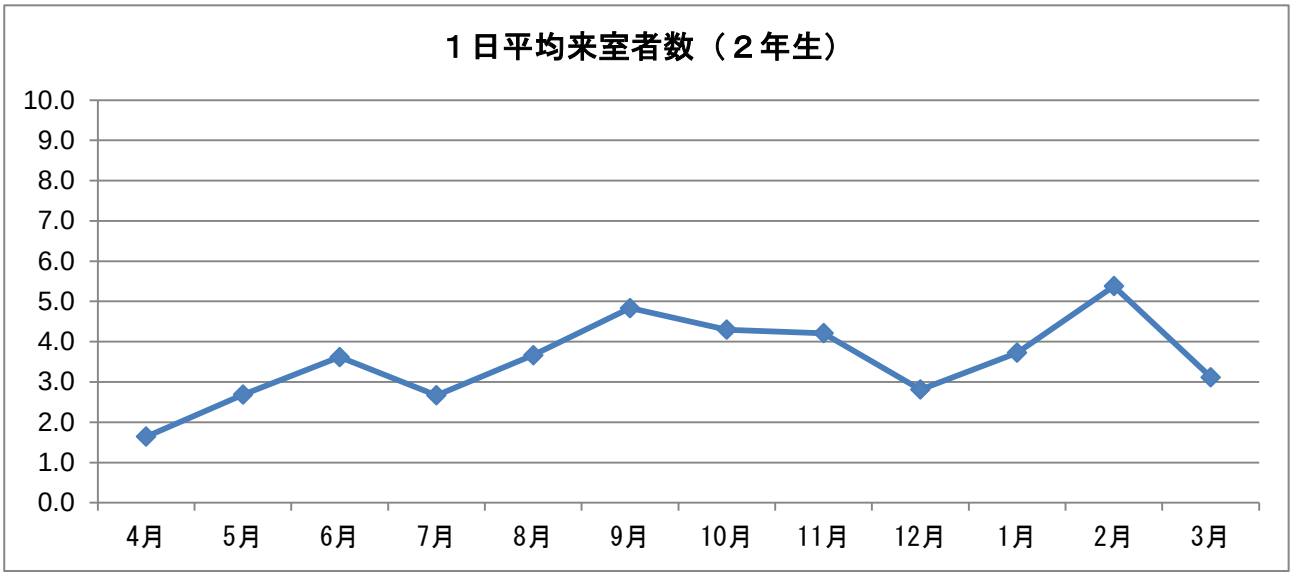
分野	領域	課題への対応と改善
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	・生活安全や防犯に関わる更なる教材開発を行う。
	安全管理	・校内でのけが発生状況を分析し、施設・設備の改善を図る。 ・安全科の授業の一環として、児童が中心となり校内の安全について啓発できる活動をおこなう。
	安全連携	・不審者対応訓練の今までの反省等を分析し、さらなる充実を図る。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	・防災等に関わる更なる教材開発を行う。
	安全管理	・防災倉庫内の備品の更新を続ける。 ・安全点検を通じて、災害時に危険な箇所の改善を図る。
	安全連携	・様々な行事を通じて池田市や地域自治会と交流を深め、緊急時にスムーズに連携できるあり方を検討する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	・児童の実態を踏まえ、交通安全に関わる更なる教材開発を行う。 ・学習の成果をもとに主体的な児童の行動を促す。 ・道徳教育を推進し、社会の一員としての自覚を児童が高めることで、マナーの向上に努める。
	安全管理	・中学、高校やＰＴＡと連携し、通学路の安全点検を行い、立ち当番の配置などについて再検討を行う。
	安全連携	・池田警察との連携を活かした交通安全指導の充実を図る。 ・PTA の登下校見守りの継続的な実施を行う。

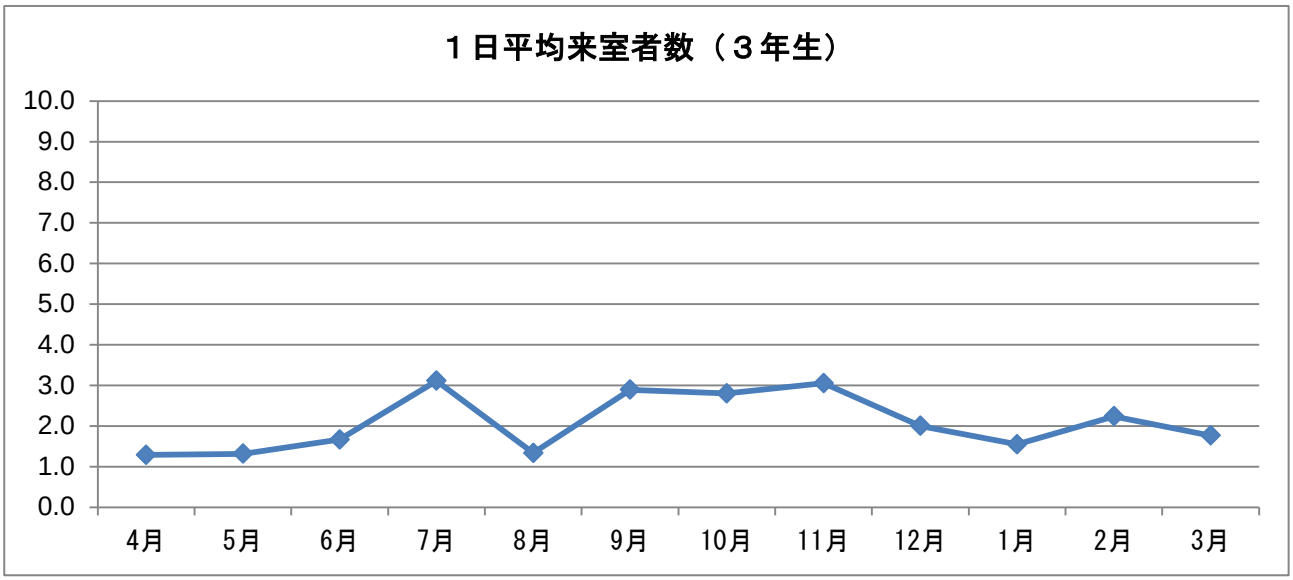
指標７：セーフティ プロモーション スクール活動の共有（平成２９年度）

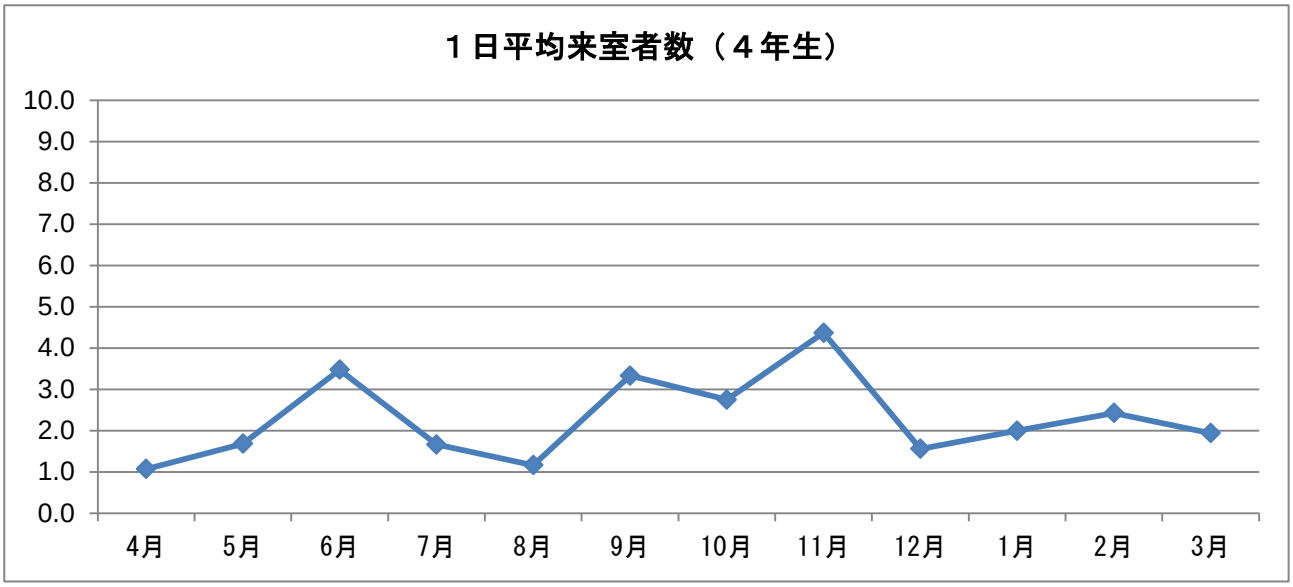
分野	領域	成果の共有と協働
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	・10 月および 2 月実施の本校教育研修会において安全科の授業実践について発信した。 ・書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」を刊行した。 ・文化発表会において、児童が学習の成果を保護者等に対して発表を行った。
	安全管理	・不審者対応訓練のＤＶＤを作成し、視察や講演時に配布した。 ・教育研修会において不審者対応訓練を公開した。 ・今年度の取り組みについて職員会議等で報告・交流した。
	安全連携	・国内外より学校視察の受け入れを行った。 ・学校および教育委員会主催の研修会において、学校安全についての講演を行った。 ・今年度の取り組みついて学校安全管理委員会において報告した。
災害安全 ・地震対策 ・風水雪害対策 ・火災予防	安全教育	・10 月および 2 月実施の本校教育研修会において安全科の授業実践について発信した。 ・書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」を刊行した。
	安全管理	・今年度の取り組みについて職員会議等で報告・交流した。
	安全連携	・国内外より学校視察の受け入れを行った。 ・今年度の取り組みついて学校安全管理委員会において報告した。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	・10 月および 2 月実施の本校教育研修会において安全科の授業実践について発信した。 ・書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」を刊行した。
	安全管理	・今年度の取り組みについて職員会議等で報告・交流した。
	安全連携	・国内外より学校視察の受け入れを行った。 ・今年度の取り組みついて学校安全管理委員会において報告した。

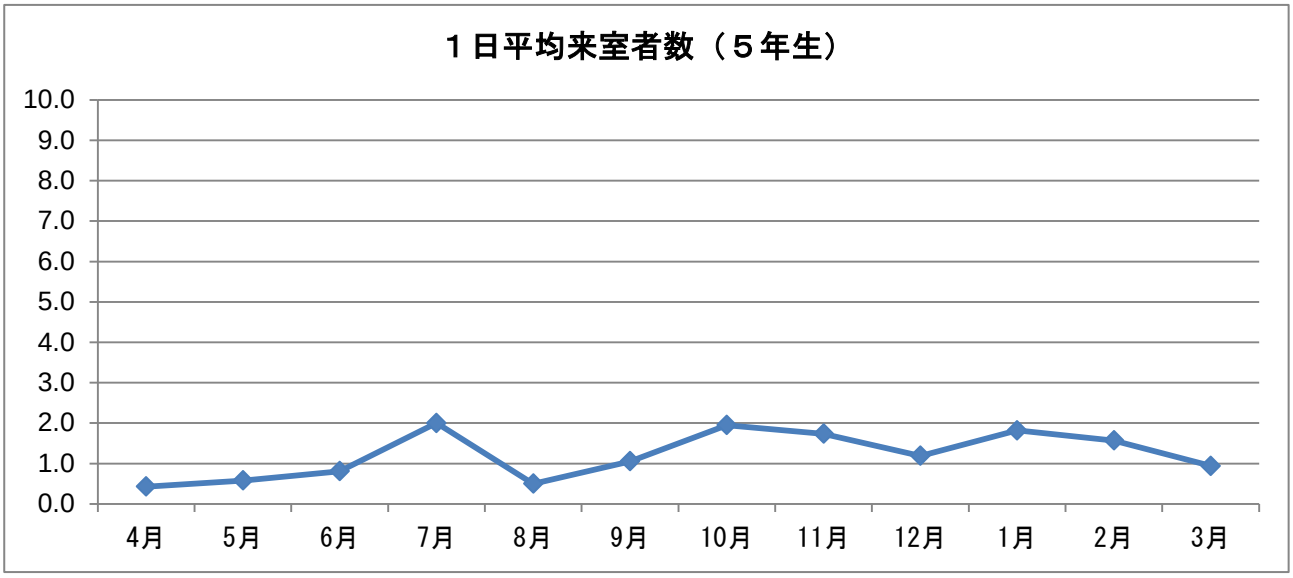
学年別１日平均保健室（怪我による）来室者数　　平成 28（2016）年度

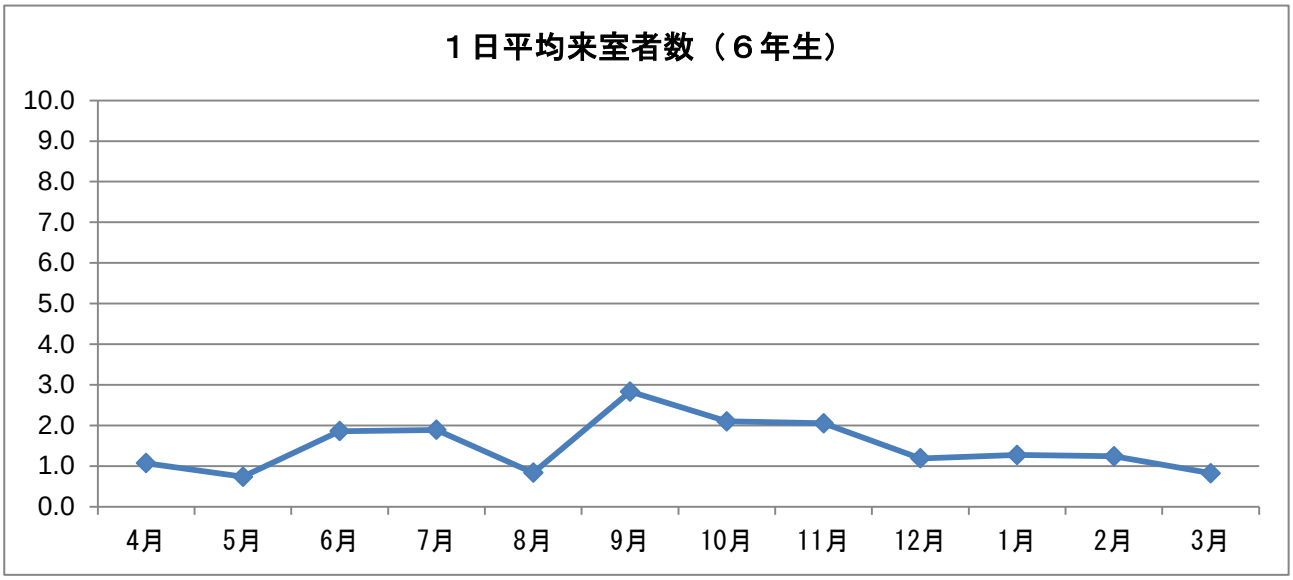


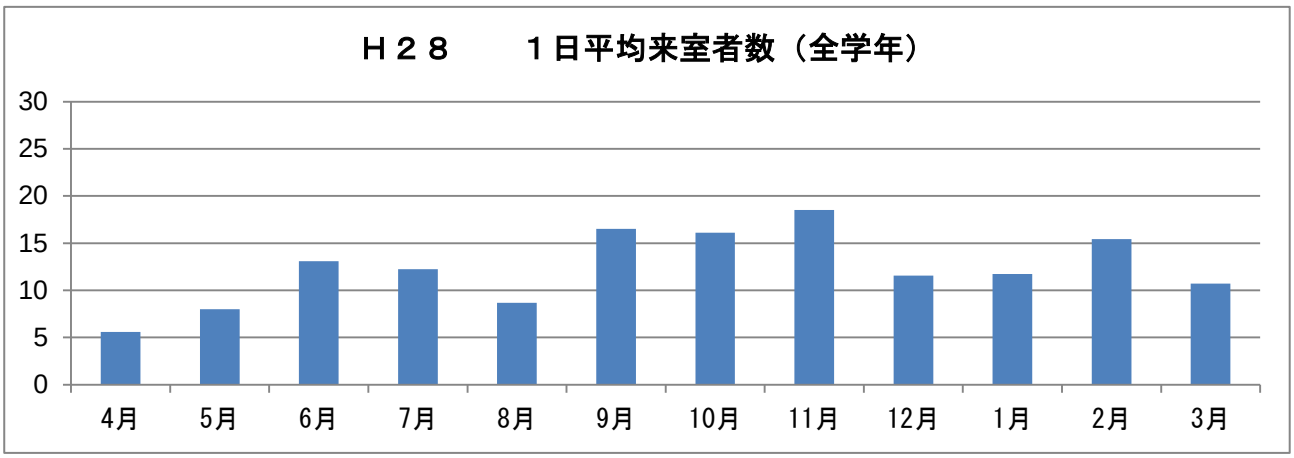


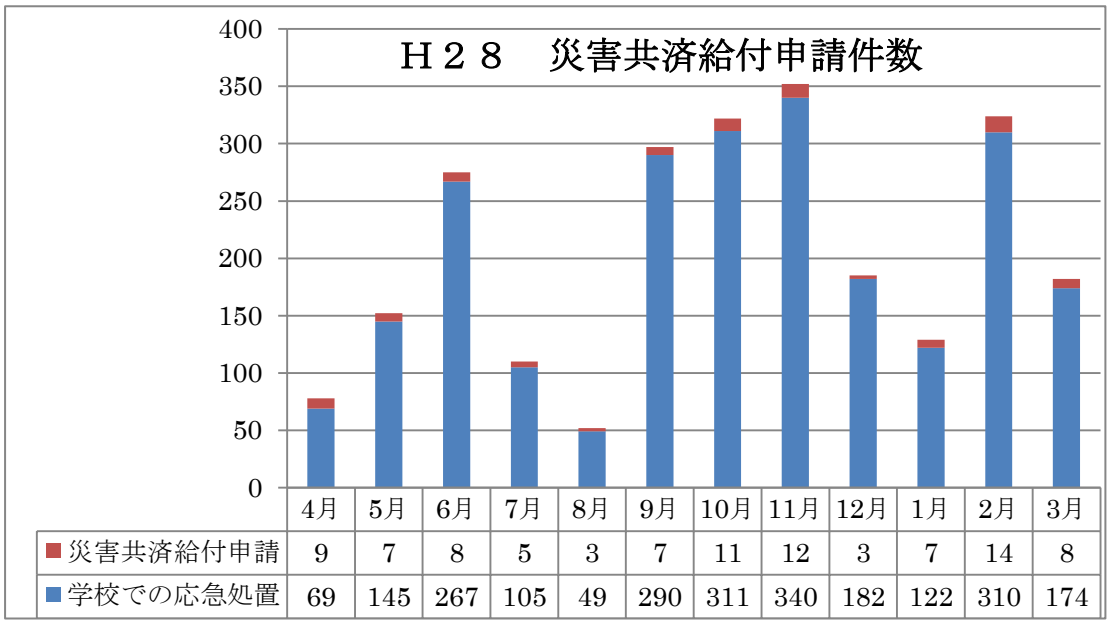



１日平均来室者数（４年生）
10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月


１日平均来室者数（５年生）
10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

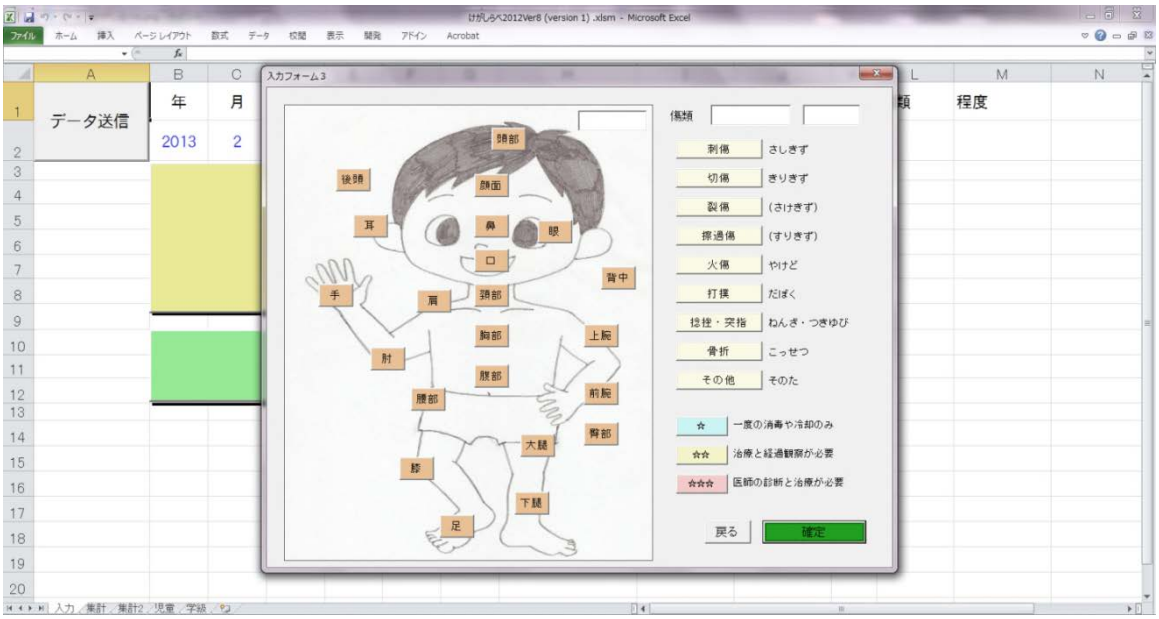

１日平均来室者数（６年生）
10.0
9.0
8.0
7.0
6.0
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月





	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
災害共済給付申請	9	7	8	5	3	7	11	12	3	7	14	8
学校での応急処置	69	145	267	105	49	290	311	340	182	122	310	174

来室者の集計は以下のようなソフトを用いて記録している。児童が自分で入力できるようになっている。



学年別安全教育カリキュラム

2017 年 11 月に出版した書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」より

大阪教育大学附属池田小学校の安全教育カリキュラム

1年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	交通事故の現状	・小学生が歩行者として被害を受ける交通事故の多さを知る。 ・小学生の事故が多い理由を考える。 ・通学時の様子を交流し、潜在的な危険に気付く。
4	事故が起きやすい場所	・資料から、事故が起きやすい場所を読み取る。 ・事故が起きやすい理由を考え、事故を起こさないためにどのような歩き方をすべきか具体的に考える。
5	校舎内の歩き方	・校舎内の歩き方のルールについて知る。 ・ルールが安心・安全につながることを知る。
5	安全クイズ	・学校内のルール、施設について思い出す。 ・安全クイズを作りみんなでルールを守る意識を高める。
6	安全な学校生活を送る	・安心・安全な学校生活を送るためのルールの大切さを考える。 ・「人」によって守られている安全を知る。
6	学校探検	・２年生と一緒に学校を探検し、校内について知る。 ・案内された場所でしてよいこと、してはいけないことを考える。
6	プール水泳の心構え	・プール水泳開始に当たって、気を付けなければならないことを考える。 ・プールにいたときの避難の方法を考える。
7	安全インタビュー	・安全を見守ってくれている「人」にインタビューをする。 ・インタビューを通して、見守ってくれている「人」への感謝の気持ちをもつ。
8	保健室の利用	・保健室を利用するうえでの約束事を理解する。 ・けがの部位や発生時の状況を説明することができる。 ・けがをした場所や時間を自分で記録することができる。
9	道路の安全な歩き方	・安全な歩行や横断をしようとする態度を育てる。 ・安全な横断のしかたを考えることができる。 ・不十分な安全確認は交通事故につながることを理解する。
10	横断歩道の安全な渡り方	・信号を守り、安全に横断歩道を渡ろうとする態度を育てる。 ・横断歩道の渡り方を考えることができる。 ・様々な場所で信号の守り方を理解する。
11	公共交通のルール・マナー	・公共交通機関に安全にマナーよく乗車しようとする態度を育てる。 ・公共交通機関の利用のしかたを理解するとともに、みんなに迷惑をかけない利用法についてどうすればよいか話し合う。
12	通学路の人やもの	・通学路で安全を守ってくれている人やものに関心をもつ。 ・安全を守っている人やもののはたらきについて、考え、その意味を理解する。
1	自分の身を守る行動	・防犯について知り、自分の身を守る行動について知る。
2	地震発生時の安全確保と避難	・授業中に地震が起こったときの身の守り方を知る。 ・避難時の約束事は、「全員が無事」に避難するために存在することを理解する。
3	火災を知る	・学校において火災が発生する可能性があるということを知る。 ・火災が起こったときの自分の行動について学ぶ。

2年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	校内での安全について	・校内での安全設備についてその役割などを理解する。
4	安全を守る設備	・自分たちを見守っている「人」について思い出す。 ・身の回りの設備（「もの」）について考える。
5	安全を守る設備調べ	・校内の安全を守る設備を調べる。 ・様々な設備についてその役割を知る。
6	水と仲良く	・家庭での水難事故について考える。 ・安全な水の使い方。
7	着衣泳（水の怖さ）	・服を着たまま水の中に入る体験をする。 ・水難事故に巻き込まれたことを想定して、自分の身を守る方法を身に付ける。
8	児童の実体験からの再現学習	・様々な場面での交通事故の事例について、原因を考える。 ・原因について考えたことから、危険を回避するために方策を考える。
9	交通事故事例からの再現学習	・交通事故の発生状況を冷静に振り返ることができる。 ・もの、人、環境の要因によって交通事故が発生することを理解し、登下校がより安全になるよう努力する。
9	学校での大きなけが	・学校内での大きなけがの事例を知る。 ・けがが体に与えるのは「痛み」だけではないことを理解する。 ・頭部のけがは重大な結果を招く可能性があることを理解する。
10	交通ルールの徹底・マナーの向上	・公共交通機関に安全にマナーよく乗車しようとする態度を育てる。 ・公共交通機関の利用のしかたを理解するとともに、みんな気持ちよく利用する方法についてどうすればよいか話し合う。
11	学んだことを発信	・学習したことから、道路での歩き方やバス・電車の乗り方を振り返り、自分たちでできることについて考える。 ・学校見守り隊として、地域の人にアピールする。
12	校内安全マップ	・様々な設備について知り、校内での位置を確認する。 ・校内安全マップを作成し、安全についての意識を高める。
1	安全な歩き方 1	・歩道をすれ違う人には様々な人がいることを知り、歩き方を考えることができる。 ・考えた歩き方を実生活に生かそうとしている。
1	緊急地震速報	・緊急地震速報の役割とその限界を理解する。 ・緊急地震速報が発報されたときに適切な行動ができるようにする。
2	火災から身を守る	・具体的な火災発生を想定して、避難経路を知る。 ・避難するときに気を付けなければならないことを考える。
3	安全な歩き方 2	・事故が起きやすい場所の安全な歩き方を考えることができる。 ・危険を予測して行動に移すことができる。
3	命を守る行動	・状況に応じた具体的な身を守る行動について理解する。

3 年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	通学安全チェック	・駅の中・歩道橋・国道沿い・住宅街など、具体的な場所の写真から、「安全な歩き方」を考えることができる。 ・立場を変えて考えることで、より安全な歩行を実践しようとする意欲を高める。
5	安全な水遊び	・水遊び（川・海）にひそむ危険について知る。 ・川や海での安全な遊び方を考える。
6	危険な場所とは 1	・「犯罪機会論」の考え方について知る。
6	危険な場所とは 2	・「入りやすく」「見えにくい」場所に気付くことができる。
7	自転車の交通ルール	・自転車の交通ルールを理解する。 ・自転車に乗るための安全点検の仕方を知る。 ・どのようなことに気を付けたら安全に走行できるかを考える。
8	安全・危険の視点	・直感的に安全・危険を判断することができる。 ・安全・危険の視点を多くもち、危険を予測することができる。 ・安全・危険には 4 つの視点があることを知る。
9	学級のけがの傾向	・自分の学級のけがの傾向を知る。 ・けがをしたときの経験を共有する。 ・けがを減らすためにはどうすればよいか話し合う。
10	4 つの視点で危険予測	・公園のイラストを見て、危険を予測することができる。 ・予測がどの視点の安全・危険かを考えることができる。 ・安全と危険が表裏一体となっていることに気付く。
10	通学路のフィールドワーク	・通学路のフィールドワークへ行く。 ・安全・危険についてワークシートの地図に書き込む。 ・グループで協力して安全・危険の根拠を明確にする。
11	安全マップ作成	・グループで模造紙に安全マップを書くことができる。 ・安全・危険の根拠を明らかにして記入している。
11	発表資料の作成	・グループで発表の準備をする。 ・プレゼンテーションソフトを使って資料を作る。 ・聞き手の安全意識を高めることを目標に、発表のしかたを工夫する。
12	シートベルト・ チャイルドシート	・シートベルト・チャイルドシートの効果・必要性を理解し、装着しようとする態度を養う。 ・正しい装着法を理解し、装着できるようになる。
1	火災を防ぐ	・自分の生活を振り返りながら、どのようなことが火災につながるのか考える。
2	火災の発生原因	・自ら火災を発生させることがないようにするための工夫を考える。
3	地震の被害の抑制	・地震が起こったときに命を守り、被害を最小限に抑えられる生活環境を考える。 ・地震後の生活に備えるべきものを考える。

4年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	校内の防火・消火設備	・学校内にある防火設備について考える。 ・学校が避難場所になっていることを知る。
4	消防施設と設備	・学校や家庭、地域の中にある消防施設、設備を知る。 ・消防署や消防団の仕組みを考える。
5	消防署見学	・消防署の見学を通して、消防の仕組みを学ぶ。 ・消防署の方の話を聞き、火災を防ぐ態度を身に付ける。
6	データから水難事故を考える	・水難事故の場所や種類のデータを読み取り、いざというときの行動について考える。
7	豪雨時の避難	・豪雨によってどのような災害が起こるのかを知る。 ・豪雨の際に命を守るためにとるべき行動を考える。 ・洪水や土砂災害発生時における安全な避難経路を選択できる。
8	着衣泳（身を守る）	・水難事故に巻き込まれたことを想定して、自分の身を守る方法を身に付ける。 ・溺れている人の命を救うための方法を知る。
9	けがの程度と119番通報	・けがの種類や程度を速やかに把握することができる。 ・119番通報の際の指令員の問いかけに答えられるようにする。 ・どのような場合に救急車を呼ぶべきかを考えることができる。
9	竜巻の発生と被害	・竜巻とはどのような現象か知る。 ・発生の簡単な仕組みを理解する。 ・安全に回避することができる。
10	自転車での危険予測	・危険を予測して回避することの必要性を理解する。 ・自転車運転者の立場だけでなく他の立場の行動も理解する。 ・普段の生活において危険な場所がないかについて話し合う。
11	交通事故の防止	・様々な場面に隠れている危険を考える。 ・交通事故を防ぐために、早く危険に気付き、正しい判断をして、安全に行動できるようにする。
11	正しい情報を得るために	・インターネットの使用について正しい判断ができる。 ・インターネット上の情報の正確さを判断する方法を知る。 ・自分のインターネットの使い方を振り返る。
12	台風の接近、上陸時の避難	・台風の接近、上陸時に起こる影響を知る。 ・安全に避難するうえでの留意点と情報収集の大切さを理解する。
1	外出先での地震への対応	・市街地や地下街で地震にあったときの適切な行動を考える。 ・家族が離れてしまった際の連絡の取り方を知る。
2	防犯ブザー	・防犯ブザーの有効性について考える。
2	性被害の防止と対処	・プライベートゾーン（口・胸・性器・おしり）について知る。 ・性被害の発生状況を知り、身を守る方法を考える。 ・性被害を受けた場合の対処の仕方を理解する。
3	防犯設備について	・防犯ブザーだけでなく、校外にある非常時の設備について考える。
3	津波と避難	・過去の津波被害の実例を学び、避難の重要性を理解する。 ・代表的な被害について、危険を回避する方法を学ぶ。

5年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	調理中のけが	・鍋や食器の熱の伝わり方を考え正しい持ち方ができる。 ・刃物の正しい扱い方ができる。
4	情報発信のマナー	・発信者としての事例に対して正しい判断ができる。 ・個人情報をインターネット上に出すことの危険性を知る。
5	食の安全を考える	・食物アレルギーについて知る。 ・調理実習を始めるに当たって、調理者としての責任を考える。
5	ネット被害	・オンラインゲームやネットショッピングに潜む危険を知り、トラブルに巻き込まれないようにするためにはどのように付き合っていくかを考える。
6	野外活動中の台風への対応	・野外活動中に台風に遭遇した際の危険に気付く。 ・過去の遭難例などをもとにして、小さな油断が大きな被害をもたらすことを知る。
6	水難事故について考える	・臨海学舎を見据えて、海での過ごし方について考える。
6	性被害と性加害	・性加害の種類について知り、「ちょっとふざけただけ」が、いかに人の心に深い傷を負わせるかを考える。
7	熱中症を防ぐ	・WBGTについて知り、過去の天候、保健室の患者数から、熱中症の起こりやすい状況を推測し、自らの生活を振り返り、予防するための目標を立てる。
7	熱中症の手当て	・熱中症が起こりやすい状況や予防する方法について理解する。 ・熱中症になったときの具体的な手当てについて理解する。
8	洪水から町を守る人々	・洪水から町を守るための先人の知恵と努力を知る。
9	台風の進路と被害	・台風の進路による被害の違いを理解する。
9	洪水を防ぐための技術	・川を流れる水の勢いが強くなる場所を理解する。 ・洪水から町を守る技術に気付く。
9	授業中のけが	・授業中にけがをする可能性について考える。 ・保護メガネや軍手の有効性について考える。
10	手当ての方法の理解と実習	・実習を通して、実際に手当てができるようになる。 ・血液感染に関する正しい知識を身に付ける。
10	スポーツ外傷・障害	・スポーツ外傷・障害とは何かを理解する。 ・現在及び将来のスポーツへの関わり方を考える。
11	ゲリラ豪雨への対応	・短時間に局地的に降る雨がゲリラ豪雨と呼ばれる理由を知る。 ・川上での豪雨が、川下におよぼす影響を知り、その対処法を考える。
11	転落事故の防止	・転落事故の危険性について、様々な場面での危険について知る。 ・転落防止についてその対策を考え、危険回避の工夫を考えることができる。
12	可燃物	・燃焼の簡単な仕組みを理解する。　・薬品の正しい扱い方ができる。
12	安全対策と対処法	・身近な危険生物を理解する。　・傷を受けた場合の正しい対処法を理解する。
12	落雷の発生と被害	・落雷とはどのような現象かを知る。 ・発生の簡単な仕組みを理解する。
1	山や海での地震への対応	・地震が山間部や海辺にもたらす被害について理解する。 ・宿泊行事の開始時に行われる避難訓練の重要性を理解する。
2	噴火と避難	・噴火とはどのような現象かを知り、避難が必要か判断できる。
2	全国の火山と火山現象	・日本の火山の分布が分かる。 ・火山活動が活発な地域の人々の暮らしと苦労や工夫が分かる。
3	津波警報・予報の種類	・津波に関する情報を入手する方法を知る。 ・これまでの津波事例から、対処法を考えさせる。 ・災害で慌てないよう、普段から何に気を付ければよいか考える。

6年生の年間計画

月	単　元	目　的
4	ネット依存	・無料通話機能ソフトに関する問題点を知る。 ・トラブルに巻き込まれないためにはどのように付き合っていくかを考える。
4	ネット犯罪	・ソーシャルメディアに関する問題点を知る。 ・トラブルを起こさないためにはどのように付き合っていくかを考える。
5	性情報への対処	・性に関わる情報を正しく取捨選択する視点をもつ。 ・SNS をきっかけに性犯罪に巻き込まれる事例について知る。
5	酸とアルカリ	・水溶液には、さわると危険な液体があることを知る。 ・誤って触れたときの正しい対処ができる。
6	けがの発生要因と予防	・人的要因と環境要因によってけがが発生することを理解する。 ・学んだことを活かして、学校がより安全になるよう努力する。
6	着衣泳（救助）	・水難事故に巻き込まれたことを想定して、自分の身を守る方法を身に付ける。 ・実技を通して溺れている人の命を救うための方法を身に付ける。
7	台風接近時の行動	・台風の接近に伴う事前の備えについて具体的に考える。 ・見通しをもった行動が、台風接近時の安全につながることを理解する。
8	標識の意味を知る	・交通標識の種類や意味を理解する。 ・映像を見て、危険な所や気を付けるべき点について話し合う。
9	個人情報の保護	・個人情報、肖像権、著作権について知る。 ・日常生活で気を付けなければならないことについて知る。
10	乱用防止	・検挙補導件数をもとに、未成年の飲酒、喫煙が薬物乱用へのゲートウェイドラッグであるとの認識を持つ。 ・飲酒・喫煙・薬物乱用から身を守るためにどうするか考える。
10	体への悪影響	・体への悪影響が将来的にどこまであるか理解させる。 ・理解したことを自分だけでなく、家族にも伝えられる知識を身に付ける。
10	救命措置について	・救命措置の仕方を学び、救命についての難しさについて知る。 ・救命の連鎖の一連の流れを知り、自分にできることを考えることができる。
11	津波からの避難	・過去の被害を知り、津波の危険性や被害の大きさが分かる。 ・東日本大震災の事例から、生死を分けた具体的な判断を知り、よりよい対処法を考えさせる。
11	津波に関する基本的な知識	・津波、高潮、高波とはどのような現象であるかを理解する。 ・日本周辺で津波が起こりやすい理由を理解する。
12	噴火の仕組みと避難方法	・噴火についての簡単な仕組みが分かる。 ・噴火による被害の種類や対処法が分かる。
12	噴火警報・予報の種類	・噴火警報・予報などの情報を手に入れることができる。 ・これまでの火山の噴火事例から、対処法を考えさせる。
1	避難場所での生活と復興	・避難所での生活を想定し、少しでも快適に過ごすためのルールやマナーを考える。 ・復興に向けて努力している被災者の思いを知る。
1	地震に関する基本的な知識	・地震の発生メカニズムを理解する。 ・「マグニチュード」「震度」などの基本的な用語の意味を知る。
1	パンデミックを防ぐ	・大流行がもたらす問題を、個人と集団という視点で考える。 ・予防は感染経路ごとに全て共通することに気付かせる。
2	病原体と病気	・病原体がもとになって起こる病気の種類を知る。 ・感染源対策、感染経路対策、感受性者対策の感染症予防の三原則を知る。
3	安全対策と対処法	・電源プラグの正しい扱い方が分かる。　・アースの役割が分かる。

安全科の授業例
2017年11月に出版した書籍「学校における安全教育・危機管理ガイド」より

1年　交通安全

歩行者
～交通事故の現状～

【授業のねらい】

春に交通安全教室で、安全な歩き方を実体験しながら学習している。加えて、交通事故の現状を知ることは、より安全に歩く意識を高めるものと考える。歩行者の事故の中でも、小学生が関わるものは非常に多い。特に多いのは通学時間帯である。資料から小学生の事故が多い理由を考えることで、１年生なりに通学のしかたを見直してほしい。

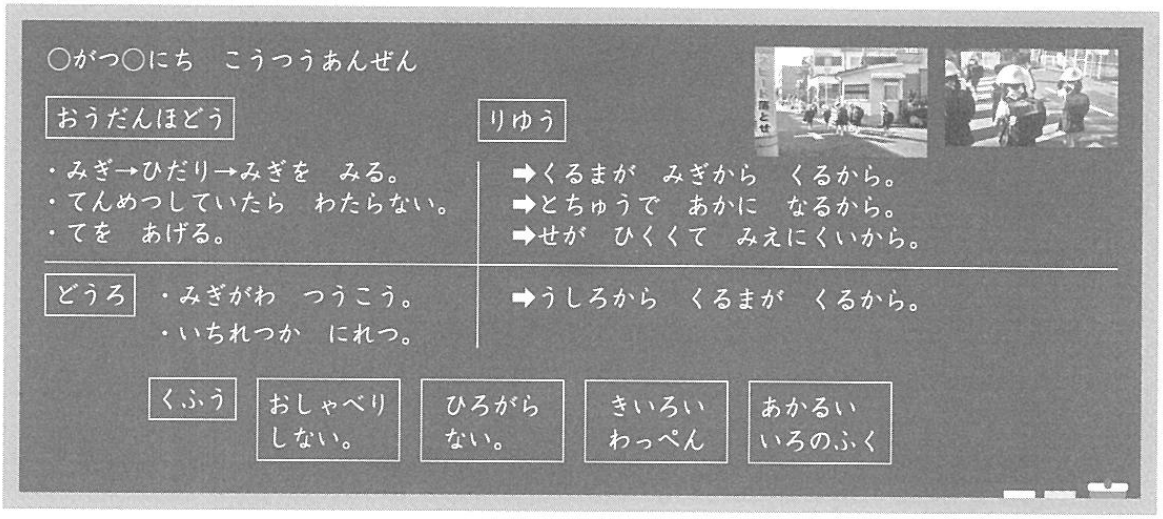
【目標】

＊小学生が交通事故に遭いやすい理由を考える。
＊登下校時の危険に気付き、安全に登下校をしようとする意欲をもつ。

【授業の流れ】

学習過程	学習内容・主な指導言	指導のポイント
導入	○登下校のときに、道路で車や自転車が急に来て、危ないと思ったことはありませんか。	・１年生は、入学して間もないこともあり、慣れない道路を登下校するため、自動車や自転車が急に来て、危険や不安を感じることが多くある。これらを思い出して、交通安全について学習することを知らせる。
展開	○交通安全教室でどんなことをしたのか思い出そう。 ○なぜ、そうするのか考えよう。	・交通安全教室で習ったことを思い出させ、実生活でやっているかどうか振り返らせる。 ・実際に下校している写真（参考資料①）を見て、小学生が交通事故に遭いやすい理由に気付き、交通安全教室で習ったことをやろうという意欲をもたせる。
終末	○ほかに、どんなことに気を付ければよいか発表しよう。 ○今日から実行しようと思ったことを選びましょう。	・自分たちで、安全な登下校をするために工夫したらよいことを発表する。 ・実現可能で、交通安全につながるものはどんどん褒めていく。 ・最後に、みんなが発表した中から、自分でやろうと決めたことを短冊に書き、家庭で目に見えるところに貼り、忘れそうになったらそれを見ることで、今後も継続して頑張ろうとする意欲をもたせる。

【板書】



【参考資料】

①登下校の様子を写した写真

登下校中の写真を見ることで、交通安全教室で学習したことが、実際の自分たちの登下校で、どの場所に当たるのか気付けるようにする。また、写真を見ることで、車と人との位置関係が分かるようにする。

②交通安全短冊

自分で、今後、気を付けたいことを１つ選び、短冊に書くことで、交通安全のための具体的な行動ができるような意欲につなげる。また、家庭にも協力してもらい、普段から目につくところに貼ったり、声掛けをしてもらったりすることで、継続的に行動できるようにする。

【生活科とのつながり】

３学期に、生活科で１年間の振り返りを行うときに、登下校の安全について、次の新１年生に伝えたいことを絵手紙で書いておき、次年度の４月にアサガオの種と一緒に新１年生にプレゼントする。

不審者・防犯
～危険な場所とは～

【授業のねらい】

習い事をすることで夜暗くなってから帰宅することが多くなる。もちろん、家の人に迎えに来てもらうなど、暗いときに１人で外を歩かないことが原則である。しかし、家の人が急な用事で迎えに来られないなど、万が一に備えておくことは大切である。そこで、夜に駅から自宅まで１人で帰宅することをシミュレーションし、少しでも安全に家に帰る方法を考えられるようにする。

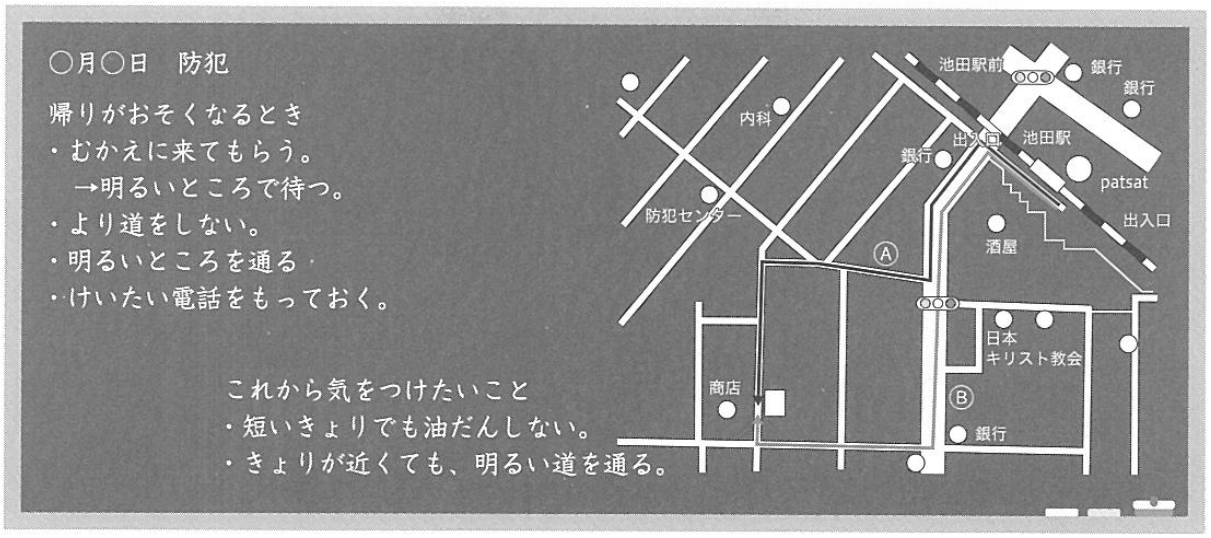
【目標】

＊暗くなってから１人で安全に家に帰るための方法を考える。

【授業の流れ】

学習過程	学習内容・主な指導言	指導のポイント
導入	○あなたは夜９時に池田駅にいます。お家の人が迎えに来てくれるはずでしたが用事があって来られなくなりました。安全に帰宅する方法を考えよう。	・導入では、児童が授業の必要感を感じることが大切である。そこで２つの方法で必要感を高めるようにした。 ①実際に小学生が塾帰りに誘拐された事例を紹介 ②帰宅が遅くなるときがあるか？その際の約束の交流 ・交流すると家の人が迎えに来てくれる家庭がほとんどであった。それが一番大切なことであると確認した上で、授業を展開する。
展開	○自宅に帰るにはＡルート、Ｂルートどちらが安全か考えよう。 ○Ａルート、Ｂルートがいいと思った理由を交流しよう。	・実際に自分の家と考えると児童によって条件が違うため、学校の最寄り駅の池田駅から共通の場所に帰宅するという設定で考えられるようにする。ルートを分かりやすくするために、地図と実際に歩いた動画を早送りで見せるとより効果的である。 《児童の意見》 Ａルート（住宅街、暗い、狭い） ・住宅街だから声を出したら誰か出てきてくれる。 Ｂルート（大通り、明るい、広い） ・明るいから人目があって安心。
終末	○これから気を付けたいことを交流しよう。	・違う地点が家だった場合を提示し、学習したことを活用できるようにする。実際の生活で何が正解かは難しいため、そのときの状況に応じて臨機応変に考えることができる力を養いたい。

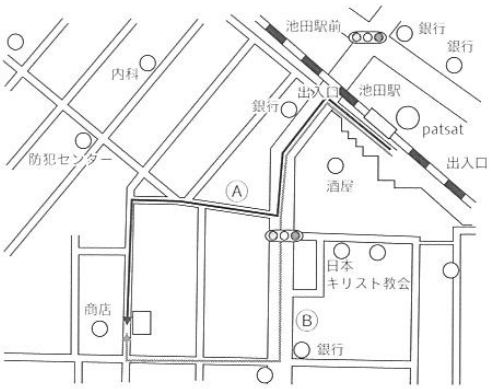
【板書】



【参考資料】

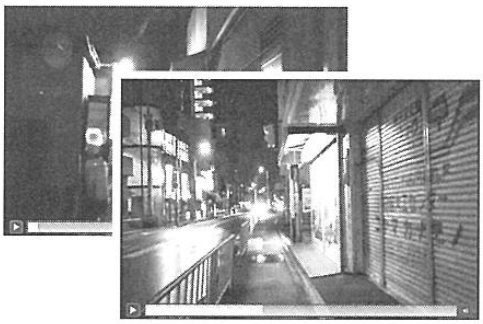
①池田駅周辺の地図

Ａルートと Ｂルートを示してどちらが安全かを考える。なぜ、そのルートを選んだのかについての理由を交流することが大切であるため、ルートを２つに限定した。共通した資料で話すことにより内容への理解が深まっていく。



②Ａルート・Ｂルートの動画

いくら校区とは言え、暗くなってからこの道を通った児童は少ない。状況を共有しやすいように動画を撮影し、映像編集ソフトで早送りで再生した。周りの様子を把握することが目的なので、１回の動画の時間が短いほど、繰り返し見せることができる。



【役立つ教材研究】

安全科はその学習内容が児童にとって身近なほど、必要感を感じる。公園の安全について学習するときでも、どこか知らない公園と校区の公園では児童の生活体験の想起がまるで違ってくる。動画撮影や映像編集は少し手間や時間がかかるが、学習内容を身近に感じさせる上で、効果は大きい。

SNSによるトラブル
～何気ない一言で～

【授業のねらい】

小学校高学年から中学生にかけて、スマートフォンや携帯電話を自由に使える機会が増えてくる。もちろん、各家庭でフィルタリングサービス等を使って、有害サイトに入れないように設定することで犯罪に巻き込まれないようにすることができる。しかし、サイトに入れないようにすることやアプリを使えないようにするだけで、子供たちの安全が守られているだろうか。本授業では、携帯電話でコミュニケーションをとるときにどんなことに気を付ければよいかを考え、実生活に生かせるようにしていきたい。

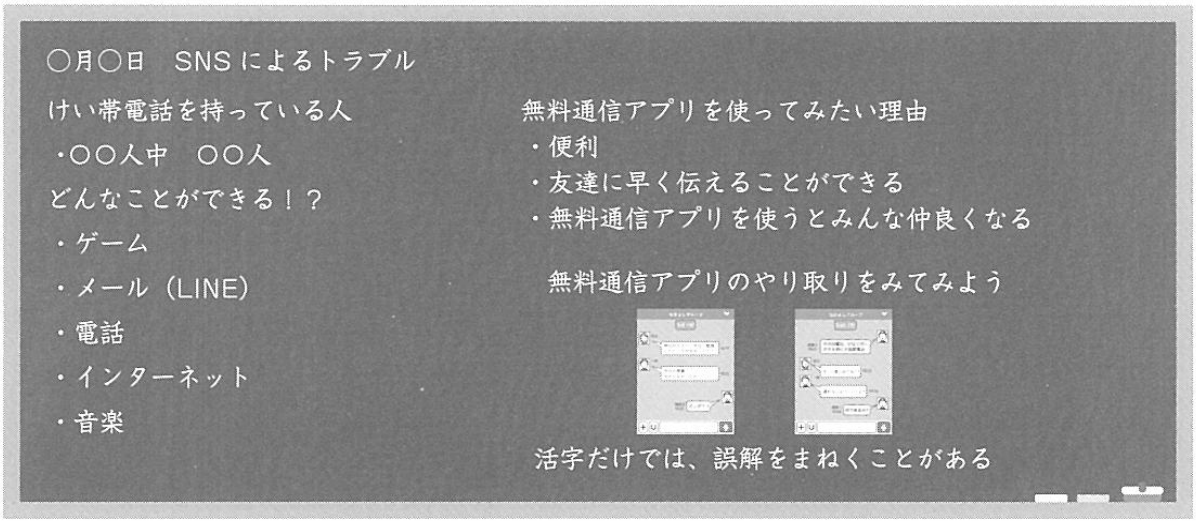
【目標】

＊インターネットに潜む問題を正しく知り、上手に付き合う方法を自分なりに考えることができる。

【授業の流れ】

学習過程	学習内容・主な指導言	指導のポイント
導入	○携帯電話では、どんなことができますか。知っていることをワークシートに書きましょう。	・学級の中で携帯電話を持っていない児童もいる。そこで、携帯電話でどんなことができるかを交流することで携帯電話を持っていない児童でもイメージをふくらませることができる。
展開	○グループチャットをしているところをのぞいてみよう。	・無料通信アプリを使ってグループチャットをしている場面での問題点を考えさせる。電子黒板を使って、本物と同じようにやり取りをする画面を提示することで、より実生活に近付けて考えることができるので効果的である（参考資料①）（参考資料②）。
	○どうして返事を返してくれないか考えよう。	・自分だったらどんな気持ちになるか送信側と受信側の立場で考えさせる。また、返事をしてもらえなかった原因から改善策を考えさせる。
終末	○無料通信アプリやメールを使うときに気を付けることを発表しよう。	・SNSは危険だから使わないということではなく、使い手が注意して利用することが大切だということを押さえる。そして、自分たちの言葉でSNSの利用の仕方を発表し、実際の生活に活かすようにしていきたい。

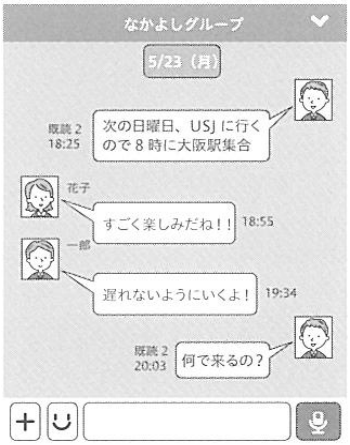
【板書】



【参考資料】

①「どこが⁉」と送ったあと、ライン外しが始まった。「どこが⁉」と送った側は、分からなかったところを聞いている。しかし、受け手は送った側の気持ちを読み取ることができなかった。受け手は「どこが⁉」と聞いてどのように考えたかを話し合い、考えさせる。

②「何で来るの？」と送ったあと、返事が来なくなった。どうして、来なくなったのか、誰に原因があるのかを考えさせる。「何で来るの？」には、「相手に来てほしくない」と「どの交通手段で来るのか」の両方の意味で受け取られる可能性がある。短い言葉だと誤解が生じやすいので、送り手も受け手も注意する必要がある。



【教材提示の仕方】

安全学習において、机上の空論で終わらせてしまってはいけない。教材がよりリアルにイメージできるものであれば、児童も身近に感じ、考えが深まると考えられる。無料通信アプリのやり取りを電子黒板で提示することで、自分の生活と照らし合わせて考えることができる。

写真…安全教育（安全学習及び安全指導）

交通安全教育

生活安全教育（犯罪予防）

地震避難訓練

地震避難訓練

水難安全教育（着衣水泳）

1 年交通安全教室

けがしらべ

給食指導（親子給食）

写真…安全管理（対人管理及び対物管理）

プール改修（日よけ・シート張替）

欠席連絡システム

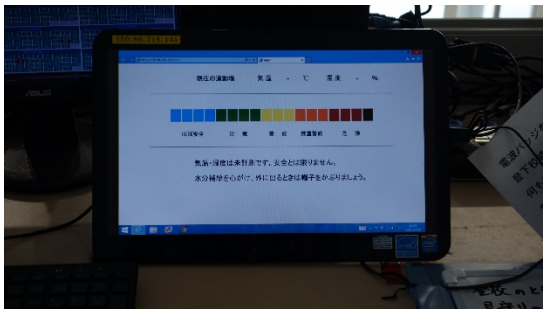
防災倉庫

運動場用校内電話

デジタルなまず

緊急時対応マニュアル

スクールバス



熱中症予防モニター

写真…安全連携（PTA 活動及び地域資源との連携）

不審者対応訓練

防犯講習会

教職員普通救命講習

PTA 普通救命講習

PTA 登校見守り

PTA 下校見守り

学校視察

池田市安全パトロール